

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)	
<p>「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学び、チャレンジする子ども (知)</li> <li>・お互いを大切に、思いやりのある子ども (徳)</li> <li>・心身を鍛え、粘り強くやり抜く子ども (体)</li> </ul> <p>全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己調整に視点を当て講師を招聘し、全教員で同じ方向性のもと授業改善を行うことで、教員の授業観、指導観の転換が進んだ。</li> <li>○児童の意欲や挑戦を大切に指導したことで、児童同士の繋がりが深まり所属感や一体感が高まった。</li> </ul> <p>△特別支援教育を中心に多様な課題への児童支援、関係諸機関との連携による保護者・家庭支援を強化する必要がある。</p>		<p>「夢いっぱい 笑顔いっぱい 一人一人が輝く楽しい学校～生きる力を培い、未来を創造できる児童の育成をめざして～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人を大切に多様な学びの実現</li> <li>・信頼される学校づくりの推進</li> <li>・郷土を愛し、郷土で学ぶ教育の実践</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価	
<p>学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教える」から「自ら学ぶ」を念頭に、主体的な学びを促し、生き生きと学ぶ授業を展開する。</li> <li>・児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い課題を解決していく学び合いを推進する。</li> <li>・自校の学力課題を整理し、改善に向けた取組の推進とその検証に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習の時間・生活科を重点研究とし児童の意欲や主体性を引き出す指導、探究的な学びに繋がる手法について研究を進める。また、地域とかかわり学び合う授業を創造する。</li> <li>○自己調整力 (自己決定・学び方・振り返り) を育む授業を推進する。</li> <li>○各種調査を基に「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」の視点から整理分析し、改善に向けた取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点研究を中心に、探究的な学びについて実践し授業改善を図ることができた。外部講師 (丹後教育局) の知見も取り入れ、授業改善の具体的なヒントを共有することもできた。3つのプロジェクトを軸とした探究活動を展開し実践を振り返ることができた。</li> <li>○研究推進部による丁寧な情報発信や、研究授業・グループ協議を通じて、全校で実践を共有し、互いの教育観・指導観を更新し合う風土が醸成された。</li> <li>○「地域人材リスト」を作成し、外部人材を効果的に活用した、地域と密着した学びの充実が図られた。</li> <li>○社会科や国語科を軸に、学習の調整を子どもの手に委ねる授業を具現化することで、高学年らしい、自律的な学びのプロセスを確立することができた。</li> </ul> <p>△重点研究での学びを授業づくりにどう波及させ、汎用的なスキルとして定着させるかが、今後の焦点である。</p> <p>△各種調査の整理・分析に留まり、具体的な授業改善のサイクルへと還元するには不十分さが残った。分析結果を具体的な指導案や手立てに落とし込むプロセスの構築が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観を通して、児童の伸びがよくわかった。</li> <li>・先生方が交流をしながら実践を積み上げてきている。先生方のつながりもできている。</li> <li>・教室には自ら学ぶ姿勢が根付いており、良い雰囲気が見られる。</li> <li>・一貫した指導体制により、学年間の段差を感じさせない緩やかな坂を登るような、連続性のある確実な成長が支えられている。</li> <li>・体験から学ぶことを今後も大切にしてほしい。</li> </ul>	

<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の4つの視点を意識し、個や集団に対するきめ細やかな実態把握と温かい居場所のある学級経営を実践する。</li> <li>・発達支持的生徒指導を重視し、安全・安心な居場所があると感じる学校・学級づくりを推進し、いじめや不登校の未然防止に努める。</li> <li>・より効果的な支援体制を構築するとともに、保護者との信頼関係を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よさを認め褒めることで自己肯定感を育てる。</li> <li>○異年齢活動を仕組み豊かな人間関係を築く。</li> <li>○全教職員で児童を見守り、情報交流を丁寧に行う（職員会議で必ず実施）ことで、「いじめ」や「不登校」の芽を逃さない。</li> <li>○多様な考えと触れる「考え議論する道徳」へと授業改善を行い、多角的・多面的な見方へと発展させる等道徳教育の充実を図る。</li> <li>○児童の状況把握に努め、SCやSSW等外部機関と組織的に連携し、いじめや不登校の未然防止を図るとともに、教職員の対応力を向上させるため研修の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メッセージカードや「いいところ伝え」等の具体的な取組を通じ、互いの良さを認め合う温かな学級風土と安心感が醸成された。</li> <li>○児童会活動や遊びを通じた縦のつながりが深まり、高学年が低学年を慈しみ、主体的に関わる姿が随所に見られた。</li> <li>○いじめ対策委員会やケース会議を定例化し、外部機関とも連携することで、児童の状況を全校で把握し、対応することができた。</li> <li>△事後の対応だけでなく、調査データや日常の観察に基づいた「未然防止」の取組を、より組織的・戦略的に強化していく。</li> <li>△評価を含め「考え議論する道徳」の時間となるよう教員の研修が必要である。</li> <li>△家庭環境を背景とした個々の課題が大きく、引き続きSC・SSW各関係機関と連携し改善構想を立て協議・共有していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員で全児童を見ていることが成果として現れている。</li> <li>・高学年が低学年を優しく見守っている姿が、地域の中でも見られる。</li> <li>・専門的な知見を取り入れることを大事にしながらSCやSSWと連携を進め対応にあたってほしい。</li> <li>・不登校児童がいないということは大きな成果である。</li> </ul>
<p>健康・安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、様々な取組を通して粘り強く活動する心を育てる。</li> <li>・安全・安心な生活を営むための対応力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の楽しさや喜びを感じさせる授業や活動を行うとともに、苦手なことでも粘り強く頑張っ てよかったと実感できる取組を仕組む。</li> <li>○SOSの発信の仕方を学び、心の面でも身体的な面でも危機回避ができるようにする。</li> <li>○食事や睡眠の重要性を学ぶ機会を設定するとともに、保護者の協力を得ながら健康的な生活習慣を育成する。</li> <li>○大宮学園の取組と連携させ、望ましい生活習慣の確立やゲーム、SNSの課題について学習の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間は多くの児童が異年齢で体育館やグラウンドで遊ぶ姿が見られる。運動が得意な児童も苦手な児童も自分らしく挑戦する姿が見られる。</li> <li>○健康安全に関する指導や取組を進めることができ、SOSの発信の仕方も周知できた。</li> <li>△家庭と連携し、いつでも、どこでも、誰にでも気持ちよく挨拶ができる児童を育てたい。</li> <li>△基本的な生活習慣に課題のある児童が固定化している。特に、ゲーム・SNS等の改善に向けて継続的な取組を行うとともに家庭との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、自分から元気よく挨拶ができるようになり、驚きとともに嬉しく感じている。姉の挨拶をする姿を見て、弟も自然と挨拶を返すようになるなど、兄弟で相乗効果が生まれている。</li> <li>・帰宅後「オフ」の状態が長引いたり、ゲームが生活の中心になったりすることで、家庭学習への意欲が低下ししやすい傾向があるのではないかと懸念。学ぶ楽しさを日々の習慣に繋げ、心身の休息と学習の時間を両立できる生活習慣の確立をお願いしたい。</li> </ul>

<p>情報活用能力 (ICT 活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末等 ICT を積極的に活用し、学習意欲の向上や授業づくり、学力向上に向けた指導方法を工夫するとともに「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT を効果的に活用し、表現力・発信力の育成を図り、コミュニケーション能力を育てる。</li> <li>○AI ドリルを効果的に活用し個別最適な学びを実現する。</li> <li>○ICT 活用の実践例を発信するとともに、研修の機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階に合わせて ICT を活用した授業を工夫することができた。特に高学年は、思考ツールを活用して整理・分析する力を身に付けることができた。</li> <li>○振り返りや情報をまとめる手段として ICT を活用する学年が増えた。</li> </ul> <p>△家庭学習での効果的な ICT の活用が課題である。「自己調整力の向上」を目指す上での効果的な ICT 活用の在り方をさらに研究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校から触れると勉強道具の一つとなる。メリット、デメリットを理解できるのも今だと思う。</li> <li>・書くことが苦手な児童にとっては有効だと思う。</li> <li>・ICT 機器は非常に便利でなくてはならないものになるが、書くということも大切にしながらバランスのよい指導をしてほしい。</li> </ul>
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級を中心にした教育活動を全校的に進める。</li> <li>・支援を必要としている児童に対して、組織的な対応を進めるとともに、児童理解の力量を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育に関する研修を通して、全教職員が専門性を身に付け、多様な児童の個性に応じた教育を実践する。</li> <li>○特別支援コーディネーターを中心に児童支援に係る部会を定例化し、現状や課題・手立て等について協議する中で、よりよい指導支援のあり方を探り、実践する。</li> <li>○保護者との面談を定期的に行い、児童の特性とともによさや成長を確かめ合う中で、合意形成に基づく支援を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員で個別の指導計画等を交流することで支援の在り方を確認し、学び合うことができた。</li> <li>○定例会やケース会議、日常的な情報交換を通じて、配慮を要する児童の状況を全校で共有し、迅速な対応へと繋げることができた。</li> <li>○担任一人で課題を抱えず、職員全体で「困り感」を共有し、多角的な視点で支援の方向性を模索する風土が定着した。また、SSW 等の専門的知見を柔軟に取り入れ、従来の手立てに留まらない、多角的なアプローチによる児童理解が進んだ。</li> </ul> <p>△児童の多様性を認め、個に応じた支援の在り方について研修を進める。</p> <p>△定期的な面談だけでなく日常的に児童の姿を家庭に伝えることで信頼関係を築き、学校と家庭で支援の共有や見通しをもつことを大切にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人ひとりの特性を的確に見極めて伸ばすことの難しさを感じる。</li> <li>・指導の基盤として教師自身が活力を持つことが大切である。</li> <li>・全職員で状況を共有し、組織的な取組が進められている。今後はさらに専門的な視点を取り入れ、多面的なアプローチを継続していくことを期待している。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を効果的に活用し、『探究的な学び』と『自己調整力』を軸とした授業改善を全校で推進することで、子どもたちの主体性を引き出し、確かな学力向上へと繋げる。また、自己調整力を高めるための家庭学習の在り方についても、ICT 活用も含め改善を図る。</li> <li>・特別支援教育と教育相談を本校の重点課題として位置付け、発達上の配慮や家庭環境の配慮等が必要な児童に対するケアを組織的に進める。</li> <li>・全教職員が心身ともに健康な状態で児童の指導に当たれるような職場づくりを進めていく。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことの楽しさを自分の力に変えて、新しい知識や発見を次々とつなげていける人になってほしい。</li> </ul>